

**令和3年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和3年6月29日(火)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第1回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和3年6月29日(火) 18:30～20:48
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 14名
池田玲子、井上佳奈子、上野隆一、上鉢功一、大沼恒司、今野良和、
齋藤金廣、齋藤豪、齋藤直美、佐藤智信、高橋俊一、高山千代子、
富樫えり、原田孝昭
- 欠席委員 1名 伊藤公司
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 成田讓
総務企画課長 小林正雄
市民福祉課長 長谷川郁子
産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛
農業委員会事務局長 佐藤友志
総務企画課課長補佐 渡部仁
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
総務企画課冠専門員 松田耕
〈本所企画部〉 政策企画課主幹 白幡有
政策企画課主任 鈴木啓司
地域振興課長 伊藤慶也
地域振興課地域振興専門員 熊田晃久
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 加藤千恵
- 次 第
- 1 開 会（総務企画課長）
 - 2 あいさつ（支所長）
 3. 会長、副会長の選出について
会長
副会長
 4. 説 明 ・ 協 議
(1) 藤島地域振興懇談会設置要綱について
(2) 主な計画・事業について
 - ・ 藤島地域振興計画(2019-2023)及び令和3年度まちづくり未来事業 資料1、2
 - ・ 令和3年度藤島地域主要事業 資料3
 - (3) 藤島地域の公共交通再編に係る調査事業について 資料4

(4) 文厚エリアについて

(5) その他

- ・鶴岡市過疎地域持続的発展計画について
- ・つるおかエール奨学金返済支援事業について

4 閉 会

4. 説明・協議

(2) 藤島地域主要事業について

- ・藤島地域振興計画(2019-2023)及び令和3年度まちづくり未来事業

－ 説明 －総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

- ・令和3年度藤島地域主要事業

－ 説明 －

- ① 総務企画課長 小林正雄
- ② 市民福祉課長 長谷川郁子
- ③ 産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛

(3) 藤島地域の公共交通再編に係る調査事業について

－ 説明 －総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

(4) 文厚エリアについて

－ 説明 －総務企画課課長補佐 渡部仁

今野会長

それでは意見交換に入ります。

委員

ぽっぽの湯の運営については、長沼の団体が新しい指定管理者となり、いままで経営にタッチした経験がない。うまくいっていただければいいのですが、3ヶ月たって現状はいかがですか。

長谷川市民福祉課長

長沼温泉ぽっぽの湯運営協議会はぽっぽの湯通信という広報を作成し配布したり、積極的に取り組んでいただいております。長沼地区自治振興会もいろいろ事業を計画して実施し、住民の方から環境整備などご協力をいただいているところです。

成田支所長

補足します。ぽっぽの湯は観光施設から健康福祉施設となり、健康福祉事業として認知症予防事業に取り組みを始めたり、非常に地元から頑張っていただいておりますが、入浴客はコロナ前の水準までは戻っていないという現状があります。4月からは指定管理委託の方

式が利用料金制から委託料制に変わり、入浴者数の増から安定運営へと指定管理の主目的が変わっておりますが、施策の効果を評価するため数値目標を持って取り組んでおります。数値目標はコロナ前の利用者を基にしておりますが、目標比で朝日のぼんぼ、櫛引のゆ〜タウンは70パーセント台、ぽっぼの湯だけ60パーセント台となっており心配しております。もともと庄内町や酒田のお客さんが多いことも一因と思われませんが、いろいろ取り組んでいる割に、なぜぽっぼの湯だけお客さんが戻らないのだろうかと心配になります。全庁体制で活性化を図っていく一環で市職員にも協力を依頼するメールを送るなど、他にもいろいろな入浴勧奨をしているところです。ぜひ皆様からもご利用をお願いします。

委員

私も補足します。長沼温泉ぽっぼの湯運営協議会が受託して事業をしていますが、長沼の地元は今までにないくらい熱をもってやっています。月一回運営協議会を開き、入浴者数等の数字もチェックしながら今までにないような事業を展開し集客を図ろうとしています。自治会の健康事業をぽっぼの湯を会場に月1回開いておりますし、また入浴とは別のポイントを作り、たまると入浴できるという取り組みを始めました。食堂もメニューづくりに工夫を加えながらやっていますし、いろいろ知恵を絞りながらやっています。お客さんに寄っていただけるよう長沼の地元ではみんなで頑張っています。

委員

いままでの入浴客が戻れば問題はないわけですが、戻ってない理由には設備の老朽化の問題もあると思います。基本的な設備が老朽化しているのでお湯の温度が低く、ぬるいとか、根本的な原因で満足度が低下しています。こういうところにどうメスを入れるのかも議論しないとだめだと思います。

成田支所長

施設の老朽化に対しては、一定程度の予算もとっています。また地元から清掃活動など地域を挙げて取り組んでいただいています。もう少し様子を見たいと思いますが、それでも入浴客が戻らないとするとその原因について改めて考えなければならないと思います。

庁舎の各課でも盛り上げるため4月から取り組みんでおりますが、コロナの影響で予定した行事が中止になるなど、なかなか進んでいない状況です。

もう少し経過を見た上で、ワクチン接種が進んでも入浴客が戻らなければ、藤島地区、渡前地区といった客層の薄い地区への働きかけなど、手を打っていかなければならないと考えています。

委員

これから知恵と工夫でなんとか、始まったばかりなのでがんばってほしいです。

今野会長

ぽっぽの湯は当初から、藤島北部にあるということで利用者の地域に偏りがあり、どうやって薄い地域からぽっぽの湯に来てもらうか当初からの課題でした。これからの取り組みの一つのポイントになります。

また、地域を超えて、立川や余目などにも積極的な働きかけしていかないと、難しいのではと思います。しっかり取り組んでいただきたいと思います。

ぽっぽの湯だけに時間をとるわけはいかないので次に移ります。

委員

ふれあいセンター隣接普通財産の利活用で5年の賃貸契約をしたとのことですが、実際の稼働予定をお尋ねします。

もう一つ、全農業者を対象に GAP 認証の取得を目指すとのことですが、どのように周知しているか伺います。

長谷川市民福祉課長

ふれあいセンターは出羽マルシェと契約いたしました。県の補助金を利用して機械を導入するというところで進んでおります。ただ、補助金の交付が遅れているので機械導入が進まず、加工までには至っていない状況です。加工が軌道に乗れば、庄農との連携、地域との連携と進むと思いますが、庄農との連携などは来年度以降になると思います。

成田支所長

GAP の説明会は市単独での開催は難しいため、県と共同での開催も検討していますが、昨年はコロナ禍で中止となった経緯があります。今年度は数回に分けてやることになると思いますが、生産組合を通じて全農家にお知らせしていく予定です。

委員

私も町内会長会るとき、地域振興計画を見させていただいたのですが、商工会の立場からすると、商工業の振興という項目が、農業に比べほとんど出てないというか、商工業の振興は何もしなくていいのか不思議に思っていました。

藤島地域文厚エリアという項目がありますが、旧鶴岡地域ばかり整備されて、藤島地域は置き去りにされた時のように感じます。それは渡前の人間からしてみれば渡前の中心の文教地域はすごく古くなって、耐震診断すれば避難所として使えない建物もあります。しかし昨年のはずくはコロナ禍で密を避けるためとって使用しているんです。藤島中心も大事かもしれませんが、藤島以外のところにも目を向けていただければありがたいと思います。

今野会長

なにかお答えできますか。

成田支所長

藤島地域振興計画については、商工業の活性化は何もないじゃないかと言われてしまえば、現状の計画では記載がありませんが、例えばイルミネーション等の取り組みについても、商工会へもアプローチして、会員の方から出店してもらうような、もっともっと力を入れていこうと検討しておりますし、少しずつ形にしていきたいと考えているところです。

文厚エリアについては、渡前地区、東栄地区の枠を超えて聞いていただきたいと思います。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、渡前小学校はすごく生徒が減っております。数年前には複数の複式学級となることは明確になっている学校です。そうなった場合、1地域1小学校の可能性が出てくると思っております。それは減り方が渡前小学校ほどではない東栄小学校でも同様と認識しています。今この文厚エリアのメインの施設として考えていくのは、昭和40年代築の藤島中学校の改築になりますが、隣にある藤島小学校もあるいは藤島地域の小学校全体でのイメージもこの文厚エリアの中では考えていけないといけないという気持ちで、本日みなさまへ項目出しさせていただきました。さらに活動センター、児童館、老人福祉センターなど、幅広く考え、これからの藤島を見据えた、エリア構想をしていきたいと庁舎としては考えているところです。みなさんからもっともっと意見を頂戴したいと思います。

委員

渡前小学校の児童数が少なくなるというのは、承知しています。たぶん一つにまとまるのかなと、ただ小学校が無くなると私たちの希望は活動センターだけです。しかし活動センターにある旧中学校の体育館はスポ少の練習で使っていますが、ボールも弾まないし、天井の穴から星が見える、照明が切れて薄暗いところで練習しています。また各町内会に防災組織を作りなさいと言って組織を作らせようとしていますが、防災マップ藤島では活動センターの体育館は床上浸水するエリアになっています。地震の時は耐震強度を満たしていないので使用してはいけない施設です。どこに逃げればいいんでしょうか。こういうことを放って置くというのは、行政としてはどうなのかなと、何十年も前から思っていました。

委員

いまの話は本当なのですか。本当だとすれば大変なことです。

小林総務企画課長

体育館については市長への要望もいただいておりますが、昭和44年の建設のため屋根は一部雨漏りしておりますし、ボールの弾みも一部よくないと承知しております。また照明

が切れている箇所については、水銀灯のため部品が交換できないため、今年度半分、来年度半分、と年次的に LED 照明を手当てするような段取りを組んでいます。その他の部分についても年次的に改修していかなければならないと考えています。

防災の関係ではコロナの関係で広い場所が必要だということで、体育館を使う計画ですが、渡前小学校の体育館も避難所として使える計画を立てられるということもありますので、今のご意見を踏まえて考えていきたいと思えます。

委員

「うだり金」という言葉わかると思いますけど、藤島中学校も耐震補強して何年もたっていません。今も照明器具も変えるということですが、ただその場しのぎで取り替える、それがどんどん無駄な金を使って最後に建替えするとなったときに、無駄遣いだったとならないように計画的にしてもらいたいです。

今野会長

旧渡前中学校の体育館の問題、合併前からの課題です。結論を先送りしないで、ダメなものダメだとはっきり結論を出した方がいいと思います。今の状況では新たに体育館を建設することは私は不可能だと思います。いつまでもあそこ直して我慢してくれというのはやめた方がよいと私はずっと思っていました。委員が怒るのは当たり前でダラダラ先延ばしにして、いつか直すみたいな話をしているからこういう質問がでるのです。実際、新たに体育館を渡前地区に建設できるんですか。

小林総務企画課長

現在の方向では新施設を建てるまでの計画にはなっていません。ただ使用する必要があるものですから、使用する期間を延ばすという方向で改修しますし、新しい体育館が建つかということは今後の検討によるため、そこまでのお話しは現時点ではできない状況です。建てられないとも言っていないのが現状です。

今野会長

大変苦しい答弁です。庁舎でも率直に本所と話をし、いずれ立て替えられるのか、できないのか、ハッキリ結論を出していく方が渡前地区の皆さんには親切だと私は思います。毎年何十年も同じ問題を地域の皆さんが話されていますので、だんだん結論を出していく方向に持っていった方がいいと思います。

委員

渡前小学校は身近に感じていつも考えています。

文厚エリアでは、来年ワークショップで地域の皆さんの意見をうかがう場所を設けてい

くと書いてありますが、年月をかけてどういうふうにしたらいいかを考えていくと思います。是非、どんどん人が減っていく中でも、小さい子からお年寄りまで集いやす多世代がそこで触れ合えるような複合施設にしてほしいです。確か南陽のホールだったと思いますが「ここいい雰囲気だな」って思ったことがありました。そういうふうに、印象がいいところには、高校生がいたり、普通の人がいたり人が集まると思います。そういう場所づくりには、アイデアというか、人が来やすいようなちょっとした仕掛けが必要だと思いますし、ワークショップで煮詰まっていくと思いますので、専門の方から入っていただいたほうがよいと思います。

また渡前小学校や東栄小学校が合併するというのであれば、計画とかワークショップと同時に、小学校の廃校舎を活動センターに活用するなど、地区住民が免許を返納しても歩いて行ける範囲で、触れ合える場づくりなど、そういう工夫をするのは、急には思いつかないので、ワークショップと同じ様な形で、地域でも、住んでいる人の意見を聞けるような場が欲しいと思っていましたので、お願いします。私個人的には、企業に貸したり、みんなで仕事するとか、軽作業するとか、いろんなことを思いつくのですが、地域の人から意見を吸い上げて、住んでいる人が楽しめる場所としていけたらいいなと思います。

成田支所長

学校の再編について現段階では市はまだ計画がない状況です。直近で言えば、藤島小学校と長沼小学校、羽黒の第四小学校と泉小学校が広瀬小学校へ統合になったのが最後の計画でしたが、今後はまた再編の計画が出てくるはずですが。鼠ヶ関小学校、東栄小学校、これが下から二つで、まだ渡前小学校は上にいるんですが、必ず渡前小学校もリストに載ってきます。その時まで一定の方向性を地域として持っていたいということもあり、子育て施設があって教育施設があって、色々な活用のしかた、色々な年代の人たちが、活用できるよう施設の在り方を考えていくことが可能な場所、なかなか鶴岡の中でも、こういった場所はないと思います。だからこそ時間をかけて色々な活用方法を皆様と考えていきたい思います。渡前地区のコミュニティエリア、活動センター、小学校などの活用も同時進行だと思います。長沼地区でもそうでしたが、同時進行的な進め方で、地域に諮りながらより良い地域での活用方法について考えていきたいと思います。

今野会長

ただいまの問題意識については、遠い将来のことではなく、近い将来の話という事で、それぞれ地域、渡前地区のことも十分に考えていただくようお願いします。

委員

砂利を敷いている中学校のテニスコートとか、焦る必要はないと思います。意見をいろんな場所で求めて組立てていけばいいのかなと思います。先ほどのぽっぽの湯の件にも

関係するのですが、やはりその施設、施設、単独で考えるから苦しくなっていくのかなと思います。

ぼっぼの湯は温泉ですから、夏場は最上地区や村山から海水浴に来る方たちの通り道になっていると聞きます。そこをうまく利用し入浴していただくなど、利用頻度を高めていくことも大事だと思います。外貨を稼ぐという点では観光と農業がこの町では一番の力になっている部分だと思いますので、うまく活用して頂ければありがたいです。

農業の方ですが、庄農と連携する事業で豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現ということで5番に 庄内農業高校と連携で100万円の予算がついているようですが、庄農と大学と振り分けていると思いますが、それぞれいくら位なのか、内訳を伺います。この事業には100万円では薄いような気がしますが、説明をお願いします。

上野産業建設課長

庄内農業高校関係といたしましては、ユネスコ食文化創造都市鶴岡の魅力体験支援といたしましては食文化生産者交流 創作レシピの発表等に対しましては10万円を予定しております。農業の成長産業化6次産業化支援といたしまして加工品開発を通じ農産加工品開発支援等に20万円、庄農うどん大作戦活動支援に55万円、農福連携地域交流農園活動支援に8万円 出品等コンテストとして全国農業高校お米甲子園またフードコンテスト出品並びにPR活動を目的に、全国大会出場などPRに係る経費といたしまして5万円、事務費1万となっております。

委員

庄農うどん大作戦に55万ということでしたが、他は薄いと正直思いました。農業の若手後継者を育てるといった事業だと思いますが、正直、若手にこれが活かせていけるかというところ、やはり物足りなさを感じてしまいました。

今野会長

ありがとうございました。時間も押してきましたが、お一人か二人。

委員

庄農うどん大変おいしかったです。食べられた人はみなさんおいしいと言っていました。ただ残念なことに一定期間のみの販売に限定されています。庄内農業高校は教育機関で需要に合わせて供給することは不可能ですので、例えば庄農さんが作れない期間は民間で作るような枠組みはできないかなと思いました。というのは、ぼっぼの湯の食堂を活用できないかということです。庄農うどんはブランドとして既に成立しているという気がしますので、そこを大いに活用していければと思いました。

成田支所長

庄農うどんを地域としてどうしていききたいかと問われれば、地域の特産物にするのであれば、民間の手に渡していくことが最終的にはゴールではないかと思っています。ただ庄内農業高校の今の状況の中でいろんな制約があって、日常的に飲食店に提供できる体制ではないということです。実はぽっぽの湯運営協議会でも常時販売したいという要望がありましたが、難しいということになりました。今後とも庄農うどんが藤島の名物として定着できるようにいろいろ相談してやっていききたいと思います。

加藤校長

庄農うどん、地域の皆さんに愛されて大変ありがたいと思います。

常時販売していただきたいという声もいただきますが、あくまで学習の一環、生徒が実習で作っている物です。やはり食べていただきたいという思いはありますけど、ずっと継続的にどこかのお店で売っていただくということは現状では念頭に置いていません。おいしいと言っていたのは大変ありがたいことだと思うのですが、庄農うどんの魅力は高校生が作っているということで評価していただいているのではないのかと思っています。

委員

庄農うどん部の外部コーチをしているものですからひと言。

ゴールは地域の特産にすることではないと自分は思います。学生が作って地域限定、期間限定で販売するからこそ、レア感がありマスコミが取り上げてくれるのであって、これが常時、年間を通して販売されれば、マスコミも見向きもしなくなりますし、ただ地域に美味しいものがあるという程度で終わってしまうと思います。レア感をもって、期間限定で販売して、それをマスコミがとりあげることで庄内農業高校に入りたいという生徒が増える、これがゴールかなと思っています。

庄内農業高校をなくさないように庄内農業高校の名前がいろんなところで発信できるような形にさせていただくと自分はありがたいなと思っています。

委員

農業振興を引き続き行政の方からもお願いしたいと思います。

庄内たがわ農協で、昨日荘銀タクトにおいて総会を開きまして総代の皆さんからいろいろなご意見を賜ったところです。農業情勢ですが、農業従事者平均で65オプラス10才、担い手不足の現状です。長沼の柿ですが、4月11日の霜で被害にあいましたが、先輩方から聞いても今までこんな被害はなかったということで、長沼の場合はほぼ全滅であります。その中で今、防除、消毒も実もないところでして、矛盾というか切ないところであります。これも来年、再来年のためにやらなければならないということで消毒しているわけですが、鶴岡市、県、国も先週、長沼へ調査に来ていただいております。県、市からもいろんな

支援策がでているところで、大変ありがたいです。柿に携わっている方は大変高齢化しており、そんなところで「あと辞めた」と、リタイアされるのが一番心配であります。具体策は7月に出るそうですが、引き続き耕作できるような、支援策をお願いしたいと思っています。特に、収入保険、果樹共済の加入が要件と聞いています。実際収入保険7割くらい、果樹共済は1割しか加入していない現状を考慮いただければ、そこは要件として外していただきたいと要望いたします。今さらそのために共済に入る方は少ないと感じています。継続して支援をお願いします。

成田支所長

基本的には県で支援策ベースをつくって、それに市が乗っていくことになります。委員の声を本所の方にも要望として伝えていきたいと思えます。

今野会長

時間もなりましたので、質疑を終了したいと思いますがいかがでしょう。

(5) その他

- ・ 鶴岡市過疎地域持続的発展計画について
 - － 説明 ー 政策企画課主幹 白幡有
- ・ つるおかエール奨学金返済支援事業について
 - － 説明 ー 地域振興課長 伊藤慶也

今野会長

質問のある方どうぞ。

委員

みなし過疎になると都市計画税は払わなくていいのでしょうか。

地域振興課長

みなし過疎になると都市計画税が免除になるということとはございません。税とは別になっています。

税の優遇では、民間企業措置というものもございしますが、かなり複雑な措置であります。ただ都市計画税が免除になるということとはございません。

委員

提案ですが、今お聞きした過疎の話、そして奨学金の話は大きな問題です。これから鶴岡市が立ち向かう大きな課題だと思います。それに対して時間が少なくてただ説明しただけ、こういう問題があるのだなと認識することしかできません。ちゃんと検討しないと質問はできません。先ほどから感じているのですが、2時間程度の会議にしては、あまりにも内容

が多すぎるのではないかと思います。時間配分をして、このまま消化しないままに終わってしまう、そういう傾向だと思いますので、次回からはもっと議題を絞ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

今野会長

ただいま会議のあり方について質問がありましたが、委員が15人中9人変わって丁寧に説明したいということもあり、限られた時間での意見交換は無理があるなと思いました。この会議は年何回の開催を予定していますか。

小林総務企画課長

年2回を予定していて、できれば3回、次は10月に予定したいと考えています。

今野会長

この会議は藤島の方向性を考える重要なものであります。庁舎と相談して次回の実施時期については相談していきます。

委員

時間がなく、発言を遠慮した方とかいると思います。今回発言できなかったことを後でフリーペーパーなどに提出して、共有するというのも受け付けてもらえるとありがたいが、いかがでしょうか。

今野会長

大変いいことだと思います。ぜひ出していただきたいと思います。

委員

行革の会議では事務局の方からメールで様式が来ています。書きやすい様式にしてもらいたいです。

今野会長

意見が出やすいような形をお願いします。

この件について何かご意見等ございますか。

なければ今日の会議については、これをもって終了致します。